

活動レポート

道北技術士会

文責：道北技術士会幹事 高桑史郎

平成 25 年度 総会および研修会を開催

はじめに

道北技術士会では、定例の総会および研修会を開催しました。当日は北海道本部より森事務局長をお迎えし、総勢 38 名の出席となりました。

以下にその概要を報告します。

日時：2013 年(平成 25 年)4 月 20 日(土)

14:00 ~ 19:30

場所：藤田観光ワシントンホテル旭川

参加：38 名(道北会員 35 名)

1. 定時総会

総会では以下の議案について審議し、全会一致で承認された。

第 1 号議案 平成 24 年度事業報告および監査報告

第 2 号議案 平成 25 年度事業計画案および予算案

第 3 号議案 役員改選

平成 25 年度の事業計画では道北地域の活性化に資するために社会動向や時宜に合った話題提供と継続研鑽の機会として CPD 活動、会員相互の技術向上と情報交換などを行うとともに、札幌における技術士全国大会の開催が確認された。また今年度は役員改選の年度であり、新幹事体制が承認された。



定時総会

2. 研修会

演題 1：技術士を巡る最近の動向

講師：日本技術士会北海道本部

事務局長 森 隆広氏

概要：

- (1) 平成 24 年度 技術士一次試験結果について
- (2) 平成 24 年度 技術士二次試験結果について
- (3) 平成 25 年度 役員候補者選出選挙結果
- (4) 平成 25 年度 地域組織幹事選出選挙投票状況
- (5) 平成 25 年度 技術士試験内容の概要
- (6) 北海道本部の運営における固有事項に関する手引き(案)
- (7) 第 40 回技術士全国大会(札幌)



事務局長 森隆広氏の講演

演題 2：北海道の寒冷地住宅の変遷

講師：北海道立総合研究機構 建築研究本部

北方建築総合研究所(北総研)

副所長 福島 明氏

概要：全国平均と比べて住宅における暖房エネルギー消費量が 3 倍以上(総量は 1.5 倍)という北海道特有の寒冷地住宅は、試行錯誤を繰り返しながらも技術開発によって年代ごとに変遷してきた。

既にほぼ新築の全数で採用されている通気層フィ

ルムや防湿フィルム、近年普及が進んでいる基礎断熱工法などで熱損失を抑えることができ、建物価値の上昇にも期待できる。また、気密性や断熱性を高めることで、社会コストを含めると太陽光発電よりも効率的である。現在は今後の道産資材をより活用した住宅普及に取り組んでいる。



副所長 福島明氏の講演

演題 3：無から有へ

日本最北のデータセンターの状況

講師：株式会社コンピューター・ビジネス
取締役インターネット・新規事業部
部長 猪上 雅之氏

概要：近年、情報データの膨大化によるバックアップや情報のセキュリティ対策の必要性は高まっているが、大震災以来、緊急時の事業継続が懸念されている。旭川市は東京などの大都市とのアクセスが良いことに加えて、地震・台風などの災害が非常に少なく、原子力発電所からも十分離れており、データセンターの立地に大きな優位性を有している。

本データセンターは設備においても免震性や消



新規事業部長 猪上雅之氏の講演

火・空調・受電・セキュリティ設備を備え、緊急時の事業継続計画 (BCP) に重要な施設として運用されている。

演題 4：技術士のポジショニング

講師：旭川工業高等専門学校 機械システム工学科
教授 (地域共同テクノセンター長)

岡田 昌樹氏

概要：近年の技術士が置かれているポジショニングについて、さまざまな尺度をもって参加会員を6班に分けてブレインストーミングを行った。内容は、尺度を2つの軸で表してマトリクス図を作成し、それに技術士と比較しうる集団や団体などを選択して、それぞれの位置と大きさを考慮しながら作成した。

6班でさまざまな結果発表を行い、他の士業、資格や学位、顧客や発注者、最新機器や有名人などを、人気度や社会的立場、報酬などから分類した。

各自が技術士のポジショニングを再確認し、今後のあるべき方向性を再考する機会を得られた。



教授 岡田正樹氏の講演

おわりに

例年、本会では地域の活性化や地域資源の活用等様々な分野において道北地域でご活躍されている方々を講師にお招きし研修会を開催しています。今年の研修会も地域の活性化を考える上で参考となる事例が多く参加者からも好評でした。

最後に、研修会にご協力頂いた講師の方々にお礼を申し上げ、ご報告とします